

研究所年報 巻頭の言葉

2004年4月からは本学の独立法人化がスタートし、2005年10月には富山医科薬科大学、富山大学、高岡短期大学の県内国立3大学が統合され、新・富山大学の中で「和漢医薬学総合研究所」として再出発することになり、研究所はまさに大きく変革しつつあります。

研究所の組織としては、8分野と2寄附部門からなる<研究部>と薬効解析部、外国人客員部、国際共同研究部、民族薬物資料館からなる<民族薬物研究センター>から構成されています。その使命としては、天然薬物資源の確保や保全、東西医薬学の融合と基盤研究、漢方医学の診断治療の客間化と人材育成、伝統医薬研究の中核拠点の形成といった課題に向けて一丸となって研究を行っております。

特筆すべきことは、1) 文部科学省 21 世紀 COE プログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」、2) 学術振興会拠点大学方式によるタイとの学術交流事業、3) 文部科学省知的クラスター創成事業「とやま医薬バイオクラスター」、4) 文部科学省産業クラスター連携プロジェクト、5) 独立行政法人国際協力機構 (JICA) の支援によるミャンマーとの伝統医療協力プロジェクト、6) 北京大学、南京大学、カルフォルニア大学デービス校との国際共同研究拠点の形成事業 (COE 支援)、7) 和漢医薬学連携ネットワーク事業 (COE 支援)、8) 経済産業省の中小企業地域新生コンソーシアム研究開発事業、などのプロジェクトに所員が積極的に参画して、研究推進、人材育成、学術交流を行っています。

毎年恒例で開催している、研究所の夏期セミナーや特別セミナー、国際伝統医薬シンポジウムも回を重ねるにしたがい、様々な魅力ある企画がなされ好評であります。

本研究所は、平成 17 年に富山県との包括協定を締結しておりますが、平成 19 年は富山県との連携事業が活発に行われた年でありました。第 12 回夏期セミナーでは体験実習場として富山県国際伝統医学センターのある富山県健康プラザをお借りし、伝統医学センターのスタッフの方にも講師を務めていただきました。この夏期セミナーは、大学生・社会人を対象とし企画されていますが、冬には、富山県民一般中高年者層を対象とした「初心者にもわかる和漢薬一日セミナー」を、夏期セミナーのノウハウを活かし、富山県国際伝統医学センターと共催で富山県健康プラザにて開催いたしました。多数の参加者があり、富山県民の和漢薬に対するニーズ、そして興味・関心の高さを感じました。

このように、本研究所は「薬の富山」の歴史を大切にする地域に根ざした活動の一方で、和漢薬の未来を見据え、さらなる研究発展を目指し、所員が力を合わせて頑張っています。どうか皆様の暖かいご支援をお願いいたします。

平成 20 年 1 月

和漢医薬学総合研究所 所長 済 木 育 夫